

平成27年度西多摩健康危機管理対策協議会（感染症地域医療体制ブ  
ック協議会）相談・外来部会及び入院医療確保部会

会議録（要旨）

【開催日】 平成27年10月8日（木）

【場 所】 福生市さくら会館

【出 席】 33名（うち代理5名を含む）

川上委員、鹿児島委員、堀田委員、小山委員、西成田委員、高木委員（代理）、安部委員、川杉委員、瀬谷委員、指田委員、野村委員、川久保委員、古川委員、橋本委員、三澤委員、小林委員、久保嶋委員、井上委員、清水委員、江本委員、櫻井委員、三浦委員、田口委員、小林委員、鈴木委員、武者委員（代理）、伊藤正秀委員（代理）、奥井委員（代理）、蓼沼委員、進藤委員（代理）、植田委員、伊藤もとみ委員、木村博子委員

【欠 席】 9名

井上委員、宮川委員、丹野委員、中岡委員、大出委員、福島委員、田坂委員、滝沢委員、木村功委員、

【事務局】 三木企画調整課長、田村歯科保健担当課長、志村生活環境安全課長  
平野保健対策課長

【議 題】

（1）「新型インフルエンザ等にかかる医療資源調査」の結果について

① 調査の実施及び結果について

（事務局） 新型インフルエンザ発生時の役割分担を検討する材料とすること、調査を通じ各病院における取組の強化を図ることを目的に、管内30病院を対象に実施  
・調査項目はBCPの策定状況や都内感染期における診療体制など

② 今後の取り組みについて

（事務局） 以下の3点を今後の課題として提示

- ・療養型・精神科病院における対策の強化
- ・新型インフルエンザ発生時の適正受診についての普及啓発
- ・医療機関相互の連携強化

（委 員） 精神科の病院は一般病院と違い、職員数が少ない、患者が集団で過ごす機会が多い、衛生的な行動がとれないということなどから、感染症が一気に広がってしまう特性がある。

患者も高齢化し何かあった時に、自力で避難できるのは3分の1であり、食事を安全にとることや薬を服用することにも時間をかけて確認する必要がある。新型インフルエンザが発生した場合、職員の欠勤が多くなり、患者のケアも最

低限しかできなくなってしまう。当院は不便な場所にあるので物資の調達が滞る恐れもあり、薬剤やリネン等物資の供給が順調にできるのか非常に心配である。前回の新型インフルエンザの時はワクチンが少しずつしか届かなかった。精神科病院だと優先順位が低くなってしまふことは覚悟している。診断キットやタミフル等をすべて病院の負担で備蓄していくのは難しい。このような状況の中でBCPを作るのは非常に難しいということに御理解いただきたい。

- (委員) (西多摩ブロック新型インフルエンザ等地域医療確保計画は) 新型インフルエンザが発症した場合、西多摩圏内で完結させようとするためのものか。
- (会長) 完結するわけではないが、他の圏域も同様の状況になると考えられることから、西多摩地区で何とか踏みこたえるようにしないといけないと考えている。
- (委員) 地域で流行った場合は互いに協力し合うことは当然であるが、西多摩の場合は精神科と療養型が多く難しい面がある。  
当院でもいろいろ備蓄しており、他の病院やクリニックに協力することもあるが無駄になるものもある。今後消費税が10%になったらさらに厳しくなるので行政に考慮してほしい。
- (会長) 備蓄の問題は、BCP作成の根幹の1つである。各病院が今の医療体制を維持するためにどのようにしていくか、入院患者を守るためにはどうしたらいいかなど準備しておくという意味でもBCPを考えていただきたい。  
西多摩地区は一般病床よりも療養病床・精神病床がはるかに多いという現状から、ほかのところとは違う医療体制を取っていかねばならないと考える。

#### 【議 題】

#### (2) 住民接種体制の構築について

- (委員) 青梅市健康課において検討中の「新型インフルエンザ等に係る住民接種の実施体制整備ガイドライン(素案)」について説明
- (会長) 昨年度の会議で集団接種について考えてほしいという提案をしたところ、早速このような形で出てきたのは画期的なことだと思う。  
1つのたたき台としてご意見をいただきたい。
- (委員) これは青梅市だけのものか、それとも西多摩全体のモデルか？
- (会長) これは青梅市のものであり、これを参考にして各行政単位で医師会等も協力いただいて作っていただきたい。
- (委員) 土・日にも集団接種を実施するとのことだが、診療所は土曜日にも開業しているところが多い。公立病院の先生が動員されるのか？  
学校の生徒すべてを校医が担当するのは難しい。
- (委員) 一般の社会活動がまだ続いているという想定で作成している。会場は多くの人が入れるということで、体育館等を想定し、土・日と平日で対象を分けた。  
医師会と協力して、ドクター4人を1つのグループにしてスケジュールを組んだ場合、試算では2カ月余はかかるということを表した。
- (会長) 青梅総合病院からも40人くらい動員することになると聞いている。医師会の

医師だけでなく病院勤務の医師にも協力してもらうことになる。

規則正しくやったとしても2か月かかってしまうぐらい住民接種は難しい。

これを1か月短くするにはどうしたらいいか、これから考えないといけな  
地域性、医師の数、住民が広範囲に住んでいる等これから少しずつ変えてい  
かないといけな。まず一歩として青梅市がたたき台をだして下さったの  
で、各行政の担当委員の方にも作っていただければ、さらに良いものができ  
ていくのではないか。

- (委員) 青梅市の案は、ワクチンが潤沢にあるという想定と思われる。新型インフルエ  
ンザが発生するとワクチンが十分来ないのでは？その時はどうするのか？
- (会長) 供給がどのくらいあるか予測はできないが、供給が無い場合、少ない場合誰か  
ら打つのか、集団接種のBCPみたいなものも作っていくことも今後の課題で  
ある。
- (委員) 新型インフルエンザが流行った場合、その型を決定してワクチンを作るまで  
には、早くても数か月以上、通常は6か月以上、1年というタイムラグになると  
考える。この住民接種体制は、季節性のインフルエンザの集団接種と新型イン  
フルエンザの住民接種が混同しているのでは？
- (委員) 青梅市のガイドラインは、季節性ではなく新型インフルエンザが発生した際に、  
国の計画に基づき国が早急にワクチンを製造し、国、都道府県、市町村という  
ふうにおろされてきた際の接種の順位ということである。
- (委員) 新しい型のインフルエンザのワクチンができるまでのタイムラグを考えると、  
今流行っているインフルエンザの型のワクチンが、今すぐできますとはいか  
ないのでは？時間差の問題をどのように検討したのか？
- (委員) 海外で1か月から2か月前に発生し、それが日本で流行するのに1～2か月か  
かる。その辺のタイムラグを含めている。豚インフルエンザの時も半年くらい  
で作られた。ワクチンの製造は日々進歩しており、製造期間も短くなるよう国  
も鋭意努力している。
- (事務局) プレパンデミックワクチンを何種類か用意しており、もし流行った場合はこれ  
を使うことができる。鶏卵ワクチンでなく、細胞培養ワクチンを今後技術開発  
して製造方法も早くなるという可能性もある。  
このような前提で集団接種の方法を考えておくことは必要であると思われる。
- (会長) 端的に言うと、このガイドラインは、今流行っている新型インフルエンザに対  
して、国からそのワクチンを全住民に接種せよという命令が出たらどうするか、  
ということを経済市が作ったものである。

#### 【報告事項】

- (1) 「西多摩ブロック新型インフルエンザ等感染症地域医療確保計画」の改定について  
(事務局) 新型インフルエンザによる健康被害を最小限に抑えることを目的に策定  
・医療資源調査の結果などを踏まえ、今後改定予定
- (2) その他（感染症媒介蚊対策について）  
(事務局) ・昨年のデング熱の国内感染の状況

- ・西多摩圏域での調査結果
- ・27年度の東京都の取組（「蚊媒介感染症対策行動計画」等）

(2) その他（デング熱について）

(事務局) ・デング熱の概要・症状

- ・行政の対応（サーベイランス等）

(会 長) 過去3年間西多摩地区の季節性インフルエンザの流行の状況として、入院数と死亡数のアンケート調査を行っている。入院する方が70名から80名、死亡する例が1名から2名であった。

新型インフルエンザの行動計画の中での推定被害想定は、罹患率25パーセント、入院数が7200人としているので通常インフルエンザの100倍と考えられる。

死亡者数は季節性の場合はこの調査結果によると入院数の3パーセント、新型の場合は行動計画の想定では入院数の5パーセントである。

死亡者の割合はそれほど高くないが、入院数はどうしても増えてしまう。

入院数が100倍になった時どうなるかを想定してBCPを各施設の方は考えていただきたい。

(委 員) 青梅市が住民接種のガイドラインを西多摩医師会の先生のご協力のもと作成したことは本当に大きなことだと思う。他の市町村も是非来年度の中で考えていただきたい。

西多摩地区は、療養病床、精神病床が非常に多いところであるが、すでに療養病床の中で1病院BCPを策定されているところがあり、精神科病床のなかでも策定を予定されている病院もある。今後保健所からもう少しアプローチさせていただき、どうしたら策定ができるか、また他の病院にそういう情報を提供させていただけるか相談させていただきたい。

(会 長) 複数の委員から指摘があったように、集団接種は流行中に行うので、ワクチンが来るのか、死亡者が出て予定より対象者がはるかに少なくなるのではないかと、などの問題がある。青梅市の案は、医師4人とそれをサポートする4人のパッケージで対象者数によって増減していくという考えが基本である。ぜひ参考にさせていただきたい。

(委 員) 金銭的な問題、緊急で誰に打つか、いかにワクチンを確保するか、などいろいろ難しい問題がある。

療養型や精神科の病院が多いので、患者を守っていくためにもこのような計画を作成するのはいいこと。青梅市で作ってくれた計画を有意義にこれから練り上げていければ良い。

(事務局) 親会議である本協議会は、福祉保健局におけるガイドライン改定の状況を見て開催時期を決定し開催したい。

協議会及び部会の委員の任期は今年度末までであるが、新たな体制で委員の就任のお願いをさせていただきたい。